

「後悔について」

後悔には「やって後悔すること」と「やらないで後悔すること」の2種類あります。表面上は「やって後悔すること」しか見えませんし、これが積もることでは何かに挑戦することが怖くなってしまいます。

先日のサッカーのワールドカップで、外国のある国の監督が敗戦の責任を問われ帰国後の空港で罵声を浴びせられる映像が出ていました。私は監督さんの気持ちを考えました。国の代表監督をやったことを後悔しているのか、それともやらないで後悔するよりは良いと思っているのか。

スポーツの結果をあのような形で責めるのは論外だと思いますが、監督を引き受けると敗戦の責任を負うことは覚悟しなくてはなりません。それをわかったうえで選手に誹謗中傷が及ばないようにすることは監督の重責です。それでもやらない後悔を天秤にかけて、引き受ける選択をしたことと思います。

サッカーの専門家であれば自分のチームの実力もわかっているでしょうから、思うような結果にならないリスクも十分承知しての決断だったと思います。例え全敗だったとしてもその勇気は称えるべきではないかと思います。

人生にはやるか、やらないかの2択の決断をすることがあります。やったときに失敗したらどのようなリスクがあるか、こちらはある程度予測が付きませんが、やらなかったときに、いつ、どのように後悔するかはあまり実感がわきません。

安全策で「やらない」決断をすることも正しいと思います。例えば起業などでは多くのお金を用意しなければならないケースもありますから、失敗で大変な負債を抱えることもあります。

あえてローリターンであってもローリスクを選択することも間違いではないと思います。

一方で人間は年をとって自由が利かなくなった時に「あのときにこれをやっておけば良かった」と後悔することが多いそうです。「いつかやろう」と思っていて大病にかかるとか、時機を逸してしまうことがあります。

大事なことは「自分でしっかりと理由を考えて決断する」ことです。誰かに言われたからこちらを選択したというのが最も後悔しやすい理由になります。熟慮のうえ自分が選んだということが後悔を減らすことにつながります。

先のことは誰にもわかりません。反省はあっても後悔は必要ないものだと思います。